

あつぎ郷土博物館NEWS4月号

好評
開催中

「厚木地域展」(3/26~6/26)が始まりました！

和田でんは本当にペンネーム？

「厚木地域展」が始まりましたが、もうご覧いただけただしょうか。「厚木」を代表する人物といえば作家で名誉市民の「和田傳」もその一人。和田は明治33年(1900)、愛甲郡南毛利村恩名(現・厚木市恩名)に生まれ、明治・大正・昭和、生涯のほとんどを故郷・恩名の地で暮らしました。今回の地域展ではなく、基本展示の小コーナーに登場いたします。

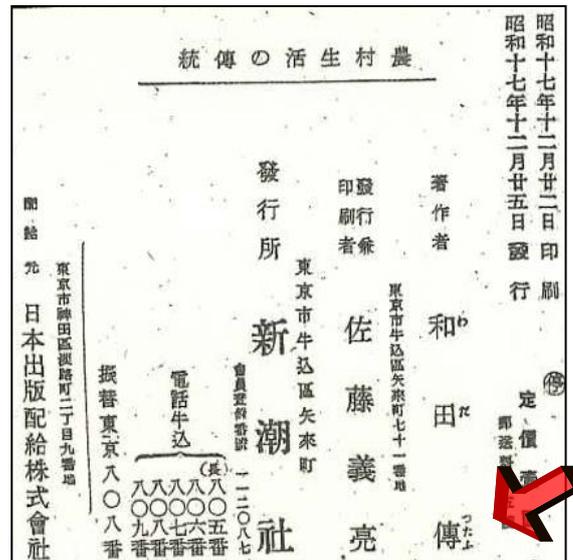
さて、厚木市では「和田傳文学賞」を開催していますが、「わだでん」「わだつとう」、皆さまは何と読まれていたでしょうか。和田の生誕百年を記念して発行された『和田傳—

相模平野に生きた農民文学作家』(厚木市文化財協会、2000年)の略歴によると、「傳」は祖父傳左衛門からの命名、本名は「わだつとう」であり、「わだでん」は通称、ペンネームということです。

ところが、博物館の資料調査により異なった傾向があることが分かってきました。著作の奥付にある著者名のフリガナに、時代による変遷が見られるのです(図)。

博物館所蔵の和田の著作36冊を含む総計144冊、大正12年(1923)~昭和54年(1979)の奥付を確認したところ、ルビが振られたものは63冊。「つたふ・ツタフ」12例、「つたへ・ツタへ・つたえ」7例、「つとう」4例で、これら本名読みの23例は昭和14~19年に集中しています。一方「でん」は40例ですが、そのうち37例が戦後でした。また、ルビなしは81冊で、うち戦前が32例、太平洋戦争中が8例、戦後が41例。本名を明記した時期と戦争の時期が重なることは明らかです。

戦争中の出版統制が、著作に本名を記すことを求める、または暗黙の了解でもあったのでしょうか。何か別の意図があり、和田が使い分けていたのかもしれませんが。いずれにせよ、「和田でん」をペンネームと割り切ってしまうことには問題がありそうです。まだ調査途中で、推定の段階ではありますが、時代の変遷と照らして、再考の必要があり、調査を続けてまいります。



※「まん延防止等重点措置」等の関係により、今後も会期変更の可能性があります。詳細は博物館ホームページ等で御確認ください。

文化財保護課 4月の予定

(御注意) 開館・行事は変更・中止になる場合があります。ホームページやフェイスブックを御確認ください。

日	曜日	行事内容	講師等	時間
NEW 博物館が一つの地域に取り組む「厚木地域展」が始まりました *4月3、10、17、24日、日曜ギャラリートークを14時から実施!				
14	木	あつぎの古文書解読会	古文書解読会 会員	13:00 ~16:00
21	木	あつぎの古文書解読会	古文書解読会 会員	13:00 ~16:00
28	木	あつぎの古文書学習会	古文書解読会 会員	13:00 ~16:00
25	月	休館日		

新企画

●厚木の指定文化財を紹介①

今号から厚木市の指定文化財を紹介していきます。その一回目として、溝呂木家に伝わる徳川家康の肖像画(東照大権現像)を取り上げます。

この肖像画を所蔵する溝呂木家は、江戸時代に厚木の渡し場を管理していた商家です。徳川家康が中原御殿(現在の平塚市)周辺で鷹狩りをした際、しばしば同家屋敷に休憩に訪れ、茶をふるまわれたと伝えられています。

御簾、三つ葉葵に渦巻文様が入った亀甲花菱文様で装飾された幕の下に、束帯姿の家康が畳に座す構図は、家康を神格化した東照大権現像の様式に則ったものです。江戸時代前期の絵師、狩野常信が描いたと伝わっています。常信の落款がなく確証はありませんが、芸術的価値が高く、伝来が確かで、溝呂木家と家康との関係を示すものとして今年2月に厚木市の有形文化財に指定されました。



- あつぎ郷土博物館 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎月最終月曜日 年末年始(12/29~1/3)
- 古民家岸邸 開館時間 午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日と火曜日(祝日の場合は翌平日)

※御来館の際は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前の検温、マスクの着用をお願いいたします。また、館内は人数制限を実施する場合があります。



(申込み・問合せ) あつぎ郷土博物館

〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515

[Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp](mailto:8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp)

FAX 046-246-3005